



実施者

＜教員＞千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司

＜参加者＞千葉大学 理学部 生物学科 4年 石井 和
千葉大学 工学部 総合工学科デザインコース 3年 高原 弘祐

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市役所 市民課市民協働グループ

【企業等】ヤマナハウス

【個人】ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志, 副代表 沖 浩志, マネージャー 溝口 耕一

1. 背景と目的・実施内容

私は昨年度より「南房総市×生物学プロジェクト」と題した南房総市と生物学の魅力の普及を目的とする活動を行っている。これは、日本、特に、地方が現在直面している少子高齢化と人口減少の影響を最小限に留めることと、より多くの若者に新たなチャレンジの機会を提供することを目的とした取り組みの一例として行っている活動である。この取り組みは①ある地域と自分の興味があることの共通点を探す②その共通点を活かした活動の方向性を検討する③その活動を実行する、という3段階に分けられ、昨年度の活動を経て第1段階が完了した。

そして、今年度の活動を通して、第2段階を完了させるとともに第3段階に移行させることができた。現地訪問は2022年4月～2023年1月の期間中に計8回(6/19, 9/3, 10/23, 11/6, 11/19, 12/4, 12/17, 1/21:ヤマナハウスの月例イベント)行った。そして、現地訪問を通して、南房総市の自然が豊かだという特徴を活かせば、生物学の魅力が伝えることができるのではないかと考えた。特に、お世話になっている施設のひとつである「ヤマナハウス」は、自然や生物学の魅力が普及させるには最適な場所である。何故なら、ヤマナハウスは都会や田舎の多様な人々が定期的集まり、里山全体をリノベーションしながら、大工仕事や畑仕事、保存食づくりなど衣食住をDIY (Do It Yourself) して自分のやりたいことができる場所で、ほとんどのヤマナハウスでの活動は自然と密接に関係しているためだ。その一方で、ヤマナハウスの来訪者と直接交流したり、ヤマナハウス代表の永森さんの話を聞いたりしたところ、ヤマナハウスの来訪者は都会に在住し、自然や里山自体が身近でない人がほとんどであることがわかった。そのため、生物学の魅力が普及させる行う前に自然に興味を持ってもらう必要があるのではないかと考えた。以上より、ヤマナハウスの自然に関する冊子を作成すれば、ヤマナハウスに関わる人達に自然の魅力を伝えることができ、更に、

南房総市の自然が豊かという特徴を普及させることで地方創生に貢献できるのではないかと考え、「ヤマナハウス冊子プロジェクト」を始動させた。また、当プロジェクトの目標を達成するには冊子の内容だけでなく、デザインやレイアウトにも注力し読者に興味を持ってもらえるような冊子を作成する必要があるため、千葉大学でデザインを専攻している学生と共にプロジェクトを進めていくこととした。まず、10月にヤマナハウスに関わる人達へ行ったアンケートの結果を基に冊子の内容を検討した。そして、11月から12月の定例会で私たちが考案した冊子の内容についてフィードバックを頂きながら徐々に内容を修正していき(図-1)、1月中旬にラフ図を完成させた。この冊子では、ヤマナハウスの成り立ちや全体のマップ、野草を用いた料理、里山で活動する際の注意点、ヤマナハウスにいる生き物図鑑をA5判・28ページにわたって紹介している。1月からはこのラフ図を基に記事の執筆や写真の撮影、ヤマナメンバーへのインタビュー等を順次開始する。

2. 成果と課題

(1) 地域貢献面

当プロジェクトで自然の魅力を普及させることは、陸と海という多様な自然が存在するという南房総市の魅力を伝えることに繋がると思われる。その一方で、冊子で自然に興味を持ってもらった後、南房総市の自然の豊かさをアピールするような活動を検討できていない点は課題であるため、原岡棧橋で景色を楽しんだり、海老敷金比羅山へトレッキングに行ったり、といった実際に私が経験した南房総市の自然の楽しみ方をヤマナハウスの来訪者に紹介する、といった対策を講じる必要がある。

(2) 教育・研究面

当プロジェクトは自然や里山自体が身近でない人に対して自然の魅力を普及させることを目的としている。しかし、最終的な目標は



図-1 ヤマナハウスの関係者の方々にプロジェクトの進捗報告を行った



図-2 来訪者の方々に自然の魅力について紹介した



図-3 ビオトープの管理を行った

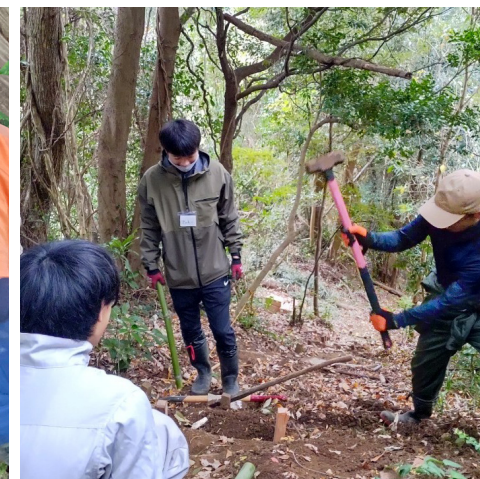


図-4 裏山の整備を行った

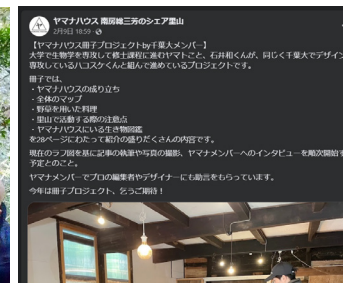


図-5 ヤマナハウスの Facebook で私の活動が紹介された

域学協働の工夫!

- ★ヤマナハウスに関わる人達にアンケートを実施したり、定例会にて進捗報告を行ったりすることで、ヤマナハウスの自然の魅力をアピールする方法を様々な視点から検討することができた。
- ★里山料理人や自然環境調査員、編集者といった様々な分野の専門家に協力してもらうことで、より正確な内容の記事を執筆できる。更に、デザイナーや印刷業に携わる方々にレイアウトやデザインについてアドバイスを頂くことで、より完成度の高い冊子を作成することができる。
- ★当プロジェクトの進捗をヤマナハウスの Facebook を経由して報告することで、ヤマナハウスに関わる多くの人達に興味をもってもらえることが期待される(図-5)。

生物学の魅力の普及であるため、この冊子を活かして自然から生物学へ読者の興味を繋げる必要がある。今後は冊子で扱う種以外のヤマナハウスでみられる生き物の名前と特徴を覚えたり、季節によるヤマナハウスの景観の違いを SNS 等で発信したりすることで、様々な側面から生物学の魅力が伝えられるようにしていきたい。また、今年度はヤマナハウスの来訪者へ簡単なレクチャーという形で植物の形態の違いを紹介したり(図-2)、階段を増設することで裏山へアクセスしやすしたり(図-4)といったような冊子作成以外にも生物学の魅力の普及を目的とする活動を行うことができた点は成果として挙げられる。

3. 今後の展開

今年度の活動を通して、「南房総市×生物学プロジェクト」の活動の方向性を決めるとともに、「ヤマナハウス冊子プロジェクト」をスタートさせることができた。そこで、来年度は最優先で冊子の作成を進めながら、「ヤマナハウス冊子プロジェクト」での経験を活かした南房総市と生物学の魅力が普及させる方法を検討していきたい。

*表彰・マスコミ掲載など

・「YAMANAHOUSE HOME | 日々」掲載 <https://yamanahouse.site/>

・「南房総市移住・定住情報サイト」掲載 <https://www.minamibosocity-iju.jp/>

・「株式会社ミライノラボ【公式】」掲載 <https://note.com/mirainolab/n/n8095fd978ea0>